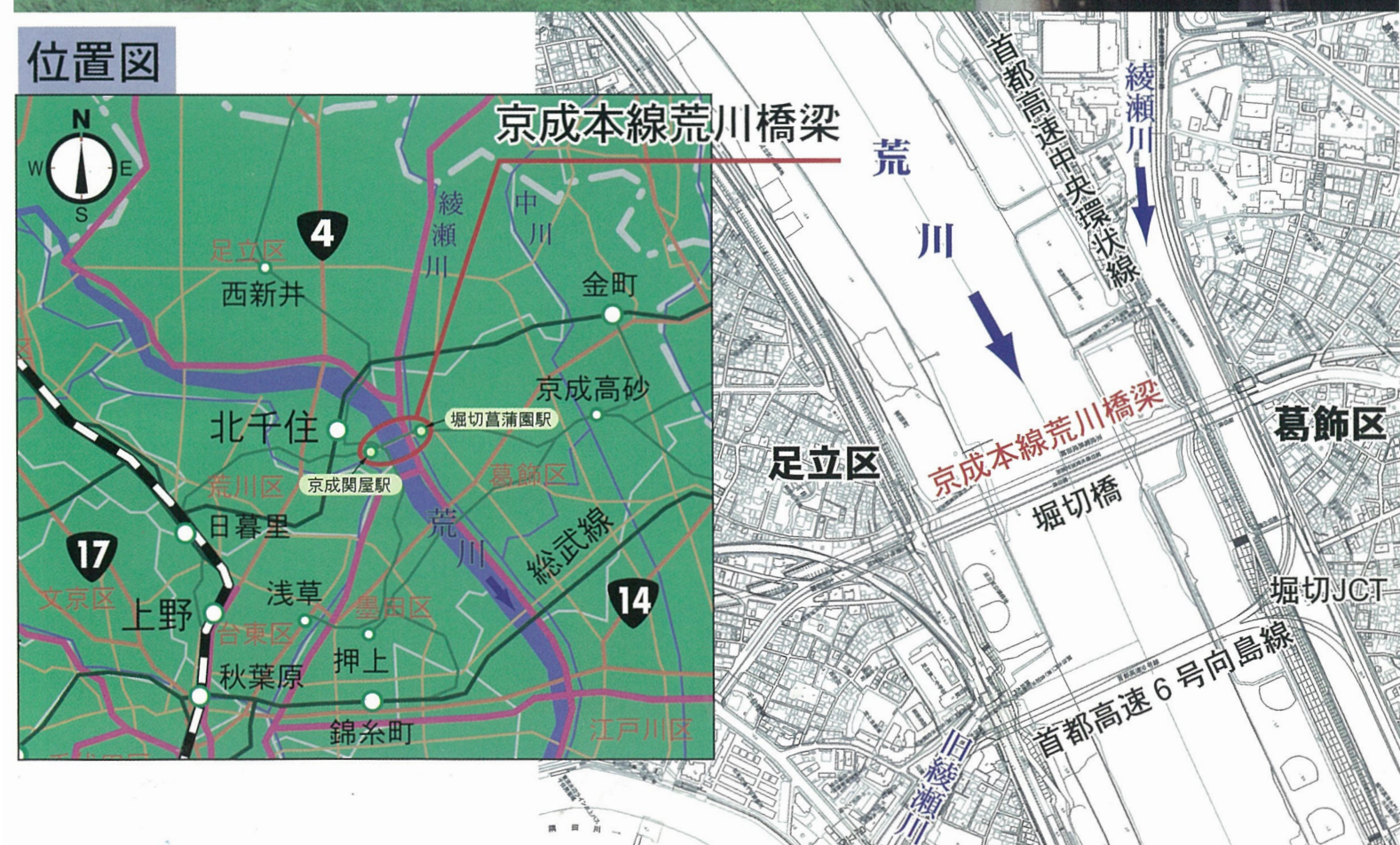


# 京成本線荒川橋梁架替事業



位置図





# 京成本線荒川<sup>きょうりょう</sup>桥梁の概要

京成本線荒川桥梁は、京成電気軌道(現在の京成電鉄)の青砥～日暮里間の開業に伴い、昭和6年(1931年)3月に完成し、同年12月19日に供用を開始しました。以来、みなさまの重要な交通機関として活躍しつづけ、現在では1日に約14万人の方々が利用しています。



京成本線荒川桥梁全景



堀切菖蒲園駅前

## 広域的な地盤沈下

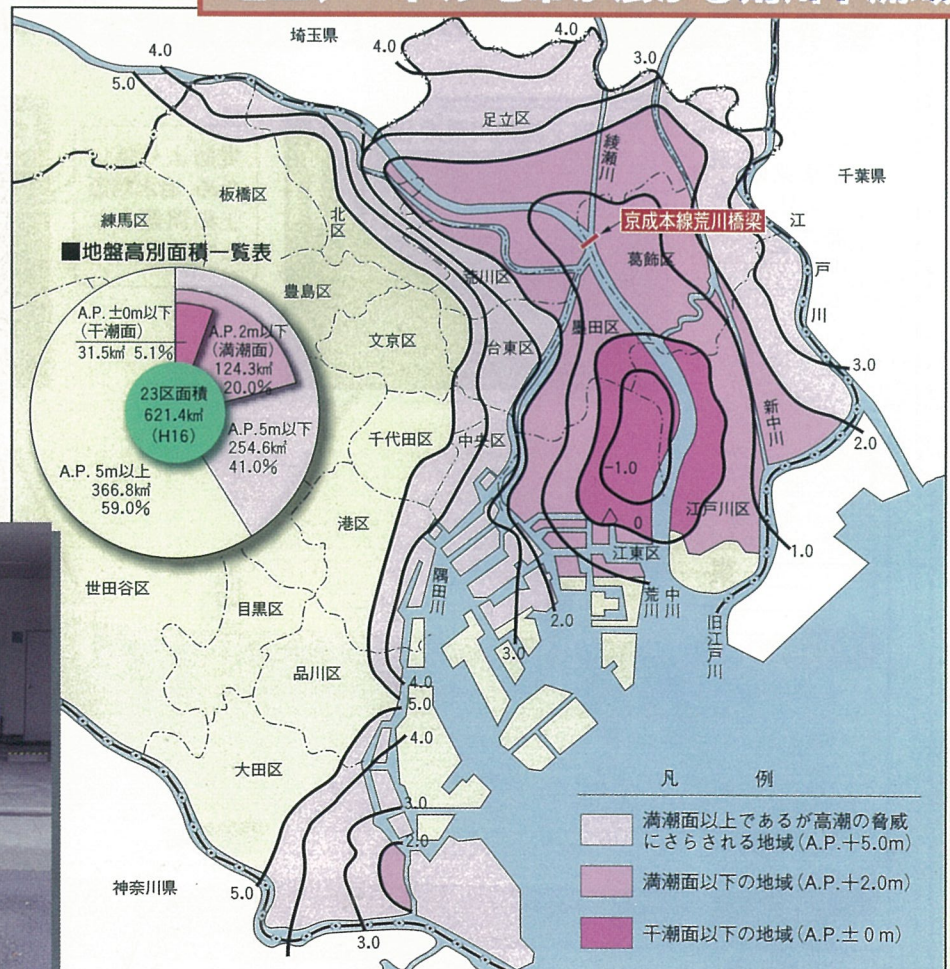
高度経済成長期の地下水の過剰汲み上げにより江戸川区や江東区を中心に広域的に地盤沈下が生じ、最大で約4.5mの沈下が確認されている所もあります。

現在では、沈下はほとんど収まっていますが、京成本線荒川桥梁の付近も約3.4mの地盤沈下が確認されています。

- 手を伸ばしている高さが  
かつて地面だったところです



## ゼロメートル地帯が広がる荒川下流域



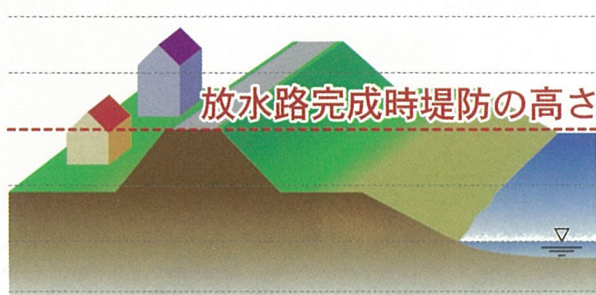
(提供：東京都建設局河川部資料を加筆修正)



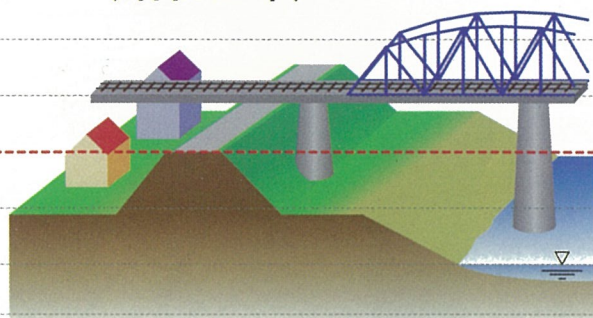
## 治水上の弱点

広域地盤沈下によって低くなってしまった堤防は、必要な高さまでかさ上げされました。しかし、橋梁部は橋梁が支障となり、かさ上げができないため、この付近の堤防は付近の堤防に比べて低い状態にあります。増水時には、堤防の低い部分から水が溢れて堤防が決壊する危険性が生じるなど、治水対策上の大きな問題となっています。

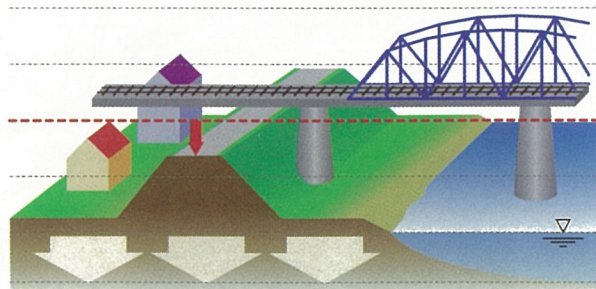
### 1 荒川放水路完成 (昭和5年)



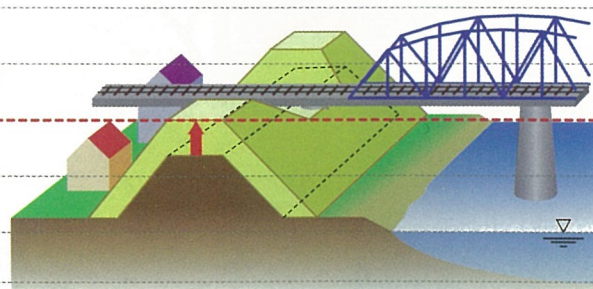
### 2 京成本線 荒川橋梁完成 (昭和6年)



### 3 地盤沈下(高度経済成長期) (地下水採取の規制が強化される)



### 4 堤防のかさ上げ実施 (但し、橋梁部分はかさ上げできない)



■ 洪水時、橋桁のすぐ下まで水位が上昇



京成本線荒川橋梁

■ 増水して橋桁に衝突した運搬船

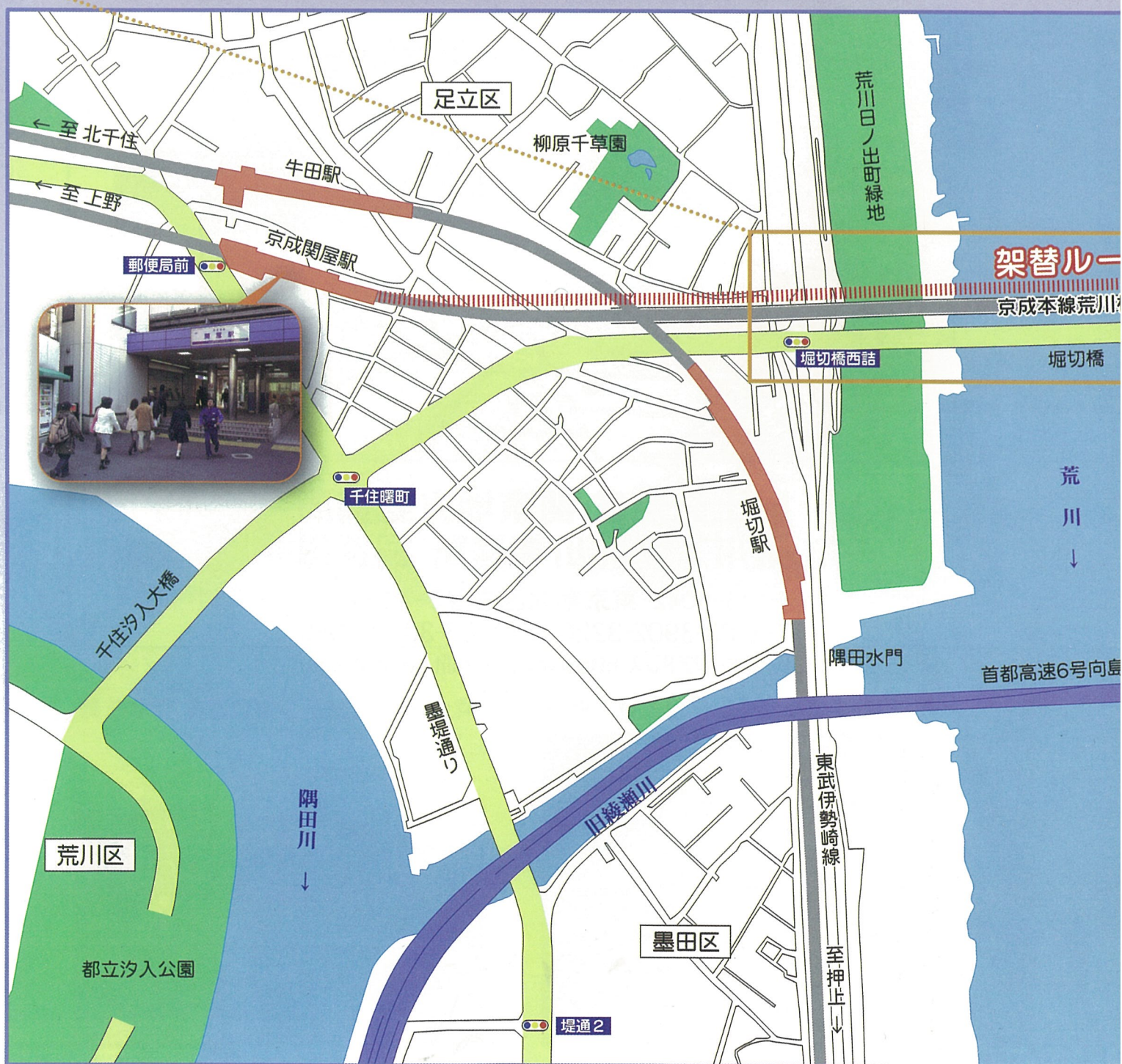
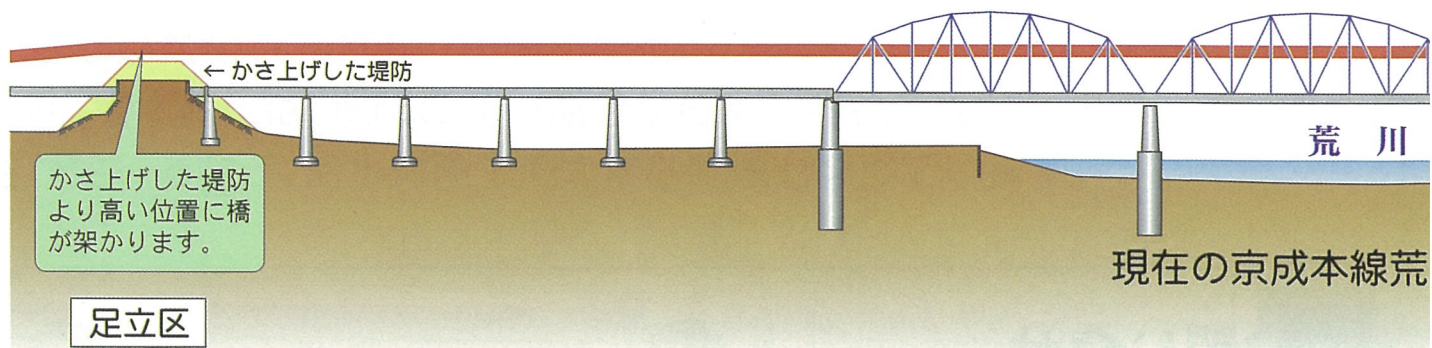


京成押上線 旧橋



## 架替後の京成本線荒川橋梁(イメージ)

架替後の京成本線荒川





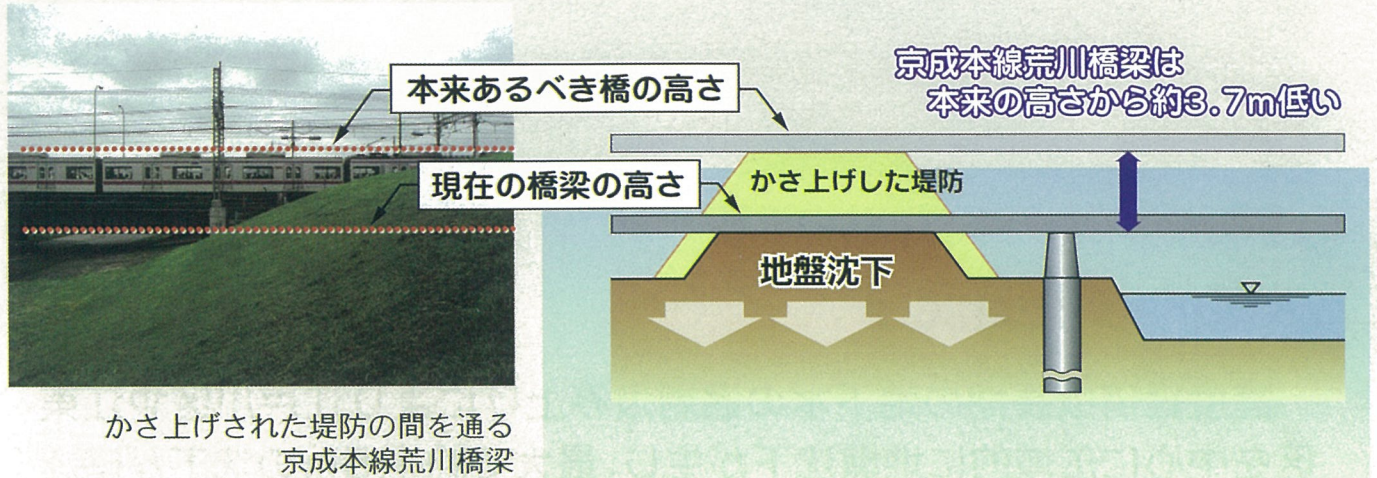




# 橋梁架替の必要性

治水対策を行うためには、橋梁部の堤防を必要な高さまでかさ上げする必要があります。そして、堤防かさ上げを行うためには支障となっている橋梁を堤防よりも高い位置へ架け替える必要があります。

平成14年には京成押上線荒川橋梁の架替事業が終了し、京成本線荒川橋梁の架替に向けた調査を進めています。

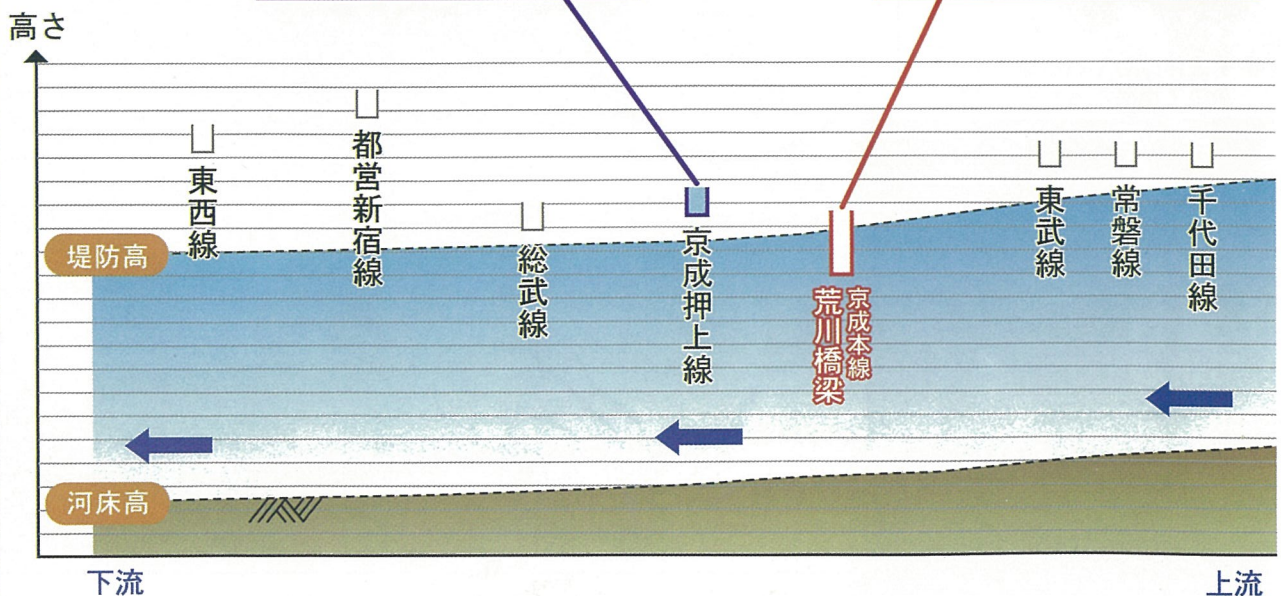


## ■ 桁下高が周辺の堤防高より低い京成本線荒川橋梁

新橋梁の完成により、十分な高さが確保できました。



堤防より低いため、治水対策上の問題となっています。





## 今後の取り組み

この架替ルートは、交差する首都高速道路橋梁（首都高速中央環状線）や平行して隣接する道路橋梁（堀切橋）などの現地状況を踏まえ作成したルートです。

今後、国土交通省・京成電鉄株式会社・地元自治体（足立区、葛飾区）と連携し、事業に対して地域の方々のご理解とご協力をしていただきながら、進めていきたいと考えています。

### 荒川右岸側の現況

- ・ 平行する堀切橋よりも低い位置にある京成本線荒川橋梁



- ・ 東武伊勢崎線との立体交差



- ・ 京成関屋駅付近



### 荒川左岸側の現況

- ・ 首都高速中央環状線の下を通る京成本線荒川橋梁



- ・ 土盛された線路を走る京成本線



- ・ 堀切菖蒲園駅付近





## お問い合わせ



### 国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 特構推進室

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1

TEL 03-3902-2314 FAX 03-3902-2457

ホームページアドレス <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>